



<https://www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro>

薬物療法

版 2016

3. 静注用免疫グロブリン

3.1 性状

免疫グロブリン(IG)は抗体の同義語です。静注用(IV)免疫グロブリン(IVIG)は健常供血者から得た大量の血漿から調製されます。血漿はヒト血液の液性成分です。IVIGは免疫系の欠陥のために抗体が欠乏している小児を治療するために使用されます。しかし、その作用機序はなお明らかではなく、病気の状況によって機序が異なる可能性があります。IVIGはある種の自己免疫疾患やリウマチ性疾患においても有用です。

3.2 投与量、投与方法

IVIGは静脈内への点滴によって投与されます。投与スケジュールは病態によって異なります。

3.3 副作用

副作用は稀であり、点滴中のアナフィラキシー（アレルギー）反応、筋痛、発熱や頭痛、および点滴約24時間後に起こる無菌性髄膜炎による頭痛や嘔吐などがあります。

これらの副作用は自然に消退します。一部の患者、特に川崎病あるいは低アルブミン血症患者ではIVIG投与によって重症の低血圧を呈する可能性があります。これらの患者については経験豊かなチームによる注意深いモニタリングが必要です。

IVIGにはヒト免疫不全ウイルス(HIV)、肝炎ウイルス、その他のほとんどの既知ウイルスは混入していません。

3.4 主要な小児リウマチ性疾患適応症

川崎病

若年性皮膚筋炎